

PROGRAM NOTE

2023年10月



発想を変えて見つめたい・・・

Dance with Wolves (ダンス・ウィズ・ウルブス)

1990年アカデミー賞他7つの賞を獲得 監督並びに主演：ケビン・コスナー

小さい頃、家族が見るので時々西部劇を見ていました。鳥の羽根をつけ、顔を塗りたくったインディアンは恐ろしく感じました。岩陰から矢を放って白人を殺したりしますから、「悪者」だと思っていました。映画「ダンス・ウィズ・ウルブス」は、そんな白人側からでなく、インディアンの視点から描かれたという前評判でしたから、期待して見に行きました。

見渡す限りかぎりの大草原に息をのみました。さえぎるものない空、太陽の輝きの下は、時計に縛られることのない時間の世界です。そこに飛び込んだのが、南北戦争の北軍中尉ジョン・ダンバーでした。彼は、荒野に一人住むことになりました。愛馬と、彼をしたうようになった野生のはぐれ娘との生活です。インディアンのスー族と出会い、ことばを覚え、交わりを深めていきます。幼い時、スー族に拾われ、育てられた白人女性を妻にします。「狼と踊る男」という名前をもらった彼の顔つきが、だんだん日焼けしてインディアンらしくなっていくのがわかります。彼は日記に書きます。「彼らの生活は笑いにあふれている。家族を大切にし、お互いがいたわり合っている。調和をいうことばこそふさわしい」彼はスー族の中に入って初めて、スー族の想いを自分のものにすることができました。

「開拓者」だった白人の姿もよく見えるようになったはずですが。視点を逆転させてみると、こんなにも違った姿が浮かびあがってくるのにびっくりします。

ジョンは強者の傲慢から救われました。でも、インディアンになりきれたわけではありません。スー族の仲間たちと離れ妻といっしょに住むべき場所を探して出発します。もしも、彼がすっかりスー族の中にとけこんでしまえたとしたら、その中で「強い者」になっていったかもしれません。スー族のなかに残っていた純朴さや、弱い者を思いやる気持ちをなくしていくかもしれません。だから、こんな別れが必要だったのではないか、という気がしました。

発想を変えて「見つめる」時、思いもしなかった世界と自分を発見できそうです。

(山本 優子：きらめき通りの映画館 23)



サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送		淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送	
10月7日	アメリカ新発見の旅 (19)	10月8日	聖書遊覧バス (詩篇)
10月14日	天野博物館 (2)	10月15日	お便り交換の時間
10月21日	女ばかり南米大陸をゆく (19)	10月22日	聖書遊覧バス (詩篇)
10月28日	マリimbaの調べ	10月29日	聖書遊覧バス (詩篇)

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.jp>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。(mp3形式)

放送時間：日本時間 午前7時半~8時 15.400kHz (再放送) 午後8時~8時30分 15.460kHz
(米国アリゾナ州制作/オーストラリア送信)

